

Remember

友美はバスに乗った。

憂鬱な朝だ。

今日から2年生だ。

何が待っているんだろう。

不安だ。

そんな気持ちに暮れながら、友美は整理券を取り、座席の窓にもたれた。

宿題も全部やったし、好きなだけ楽しんだつむりの春休み明けだ。なのに、気分が晴れない。

そうこうしているうちに、バスは学校のバス停の前で止まった。小銭を差し出し、いつものように校門をくぐって、みんなにいつもどおり「おはようございまーす」と声をかける。教室に入って、準備をする。何もかもいつも通りだ。それでも、まだ気分が晴れない。

新が声をかける。

「おはよう。今日元気ないな、友美？」

「あ、いや、大丈夫だから……。」

別に難しい理由でもない。

ゆうべ、自分の成績票を見たら、点数が良かったはずの理科と美術と国語が一学期の時よりも下がっていたのだ。そのことで母と言い合いになり、いつもより40分遅く寝てしまったのだ。そのせいで、今日は心も体も、疲れが抜けきっていない。

朝会では、校長先生のお話を聞くことになっている。

〈……いかん、眠気が……〉

うとうとしながらも、やっと校長先生の話聞き終えた。

……と思ったら、一難去ってまた一難。今度は数検の賞状を受け取らなければいけない事を、友美はすっかり忘れてしまっていたのだ。

クラスメイトから注意されながら、友美はしぶしぶ賞状を取りに行った。

〈今日はどうも調子が出ない……、一体どうしたんだろう、私……。〉

友美は思わずため息をついた。

〈……おっ、転校生のスピーチがあるみたい。〉

その転校生の名前はマイケルと言うらしい。

家族の事情でイギリスから転校してきた。

日本に行くために日本語を猛勉強してきた。

そしてスピーチが始まり、マイケルは、一生懸命に話した。

「僕の将来の夢は、小説家になることです。」

スピーチを聞いているうちに、友美は次の言葉が印象に残った。

「何事も、勇気があればできないと言うことはない」

〈……私も、そんな風になりたいなあ。〉

友美は、なんだか自分の夢に希望が持てるようになった。

「遅れるぞー」新の声が響く。

友美は、慌ててみんなについて行った。

☆選んだ短歌

「勇気を出して まずは今を 生きてゆこう まずは今を 生きてゆこう」